

【10-A-1】水野連区 社会条件 その1

【連区の概要】

水野連区は瀬戸市の北西部に位置し、春日井市、名古屋市守山区と接する。北側は森林が広がり、春日井市との市境には庄内川が、北東部から西部へ水野川が流れている。市街地は主に南西部の水野川両岸に集中しており、南東部は企業団地を形成している。主要道路としては国道155号が北西部から南西部に通過しており、並行して愛知環状鉄道が存在する。水野連区内には、中水野駅が存在する。

水野連区



【人口および世帯数】

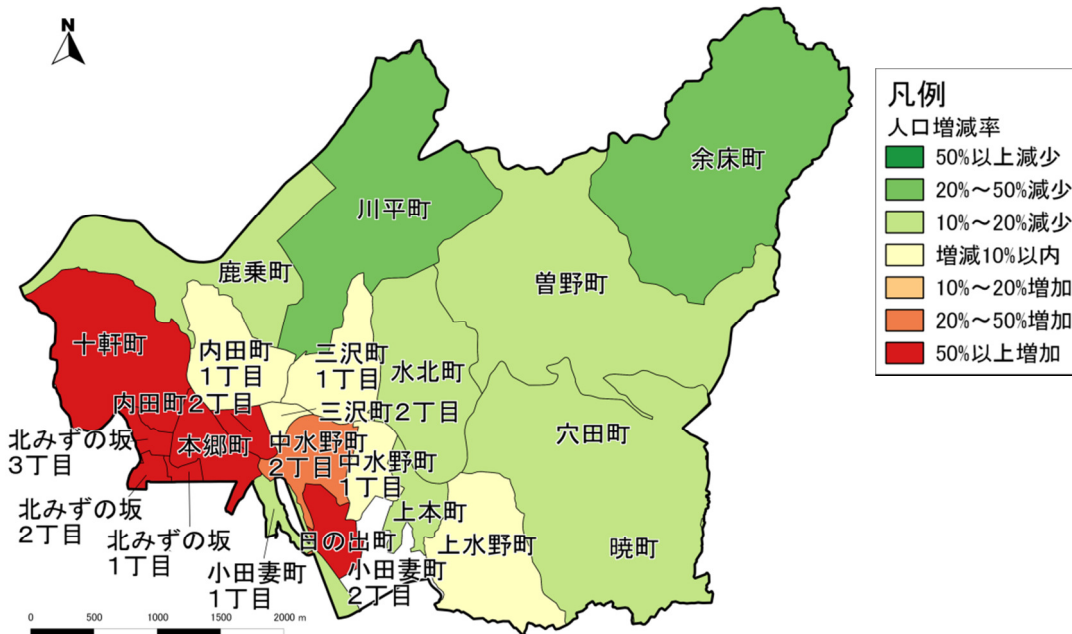
平成12年から平成22年までの10年間で、水野連区全体の人口は9,346人から8,374人と10.4%減少している。連区内では、西側の十軒町、本郷町、内田町2丁目、日の出町などで人口が増加している。その中でも日の出町が242.9%と最も増加率が高くなっている。また世帯数は2,871世帯から2,910世帯と1.4%増加している。

水野連区全体の65歳以上人口比率が23.4%と、瀬戸市全体の23.3%と同程度である。連区内では、本郷町、中水野2丁目、日の出町などの人口が多い地域では65歳以上人口が低く、余床町を除き、山間地域での65歳以上人口比率が高くなっている。

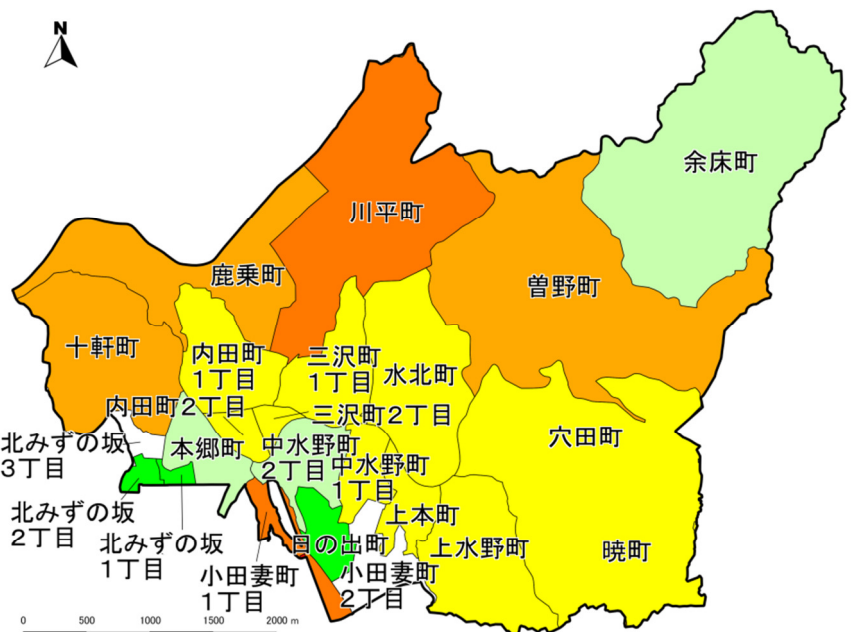
階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	1,140人	13.6%
15～64歳	5,258人	62.9%
65歳以上	1,956人	23.4%
区分不明	20人	-
連区内人口	8,374人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

※小田妻町2丁目の人口は0人である。

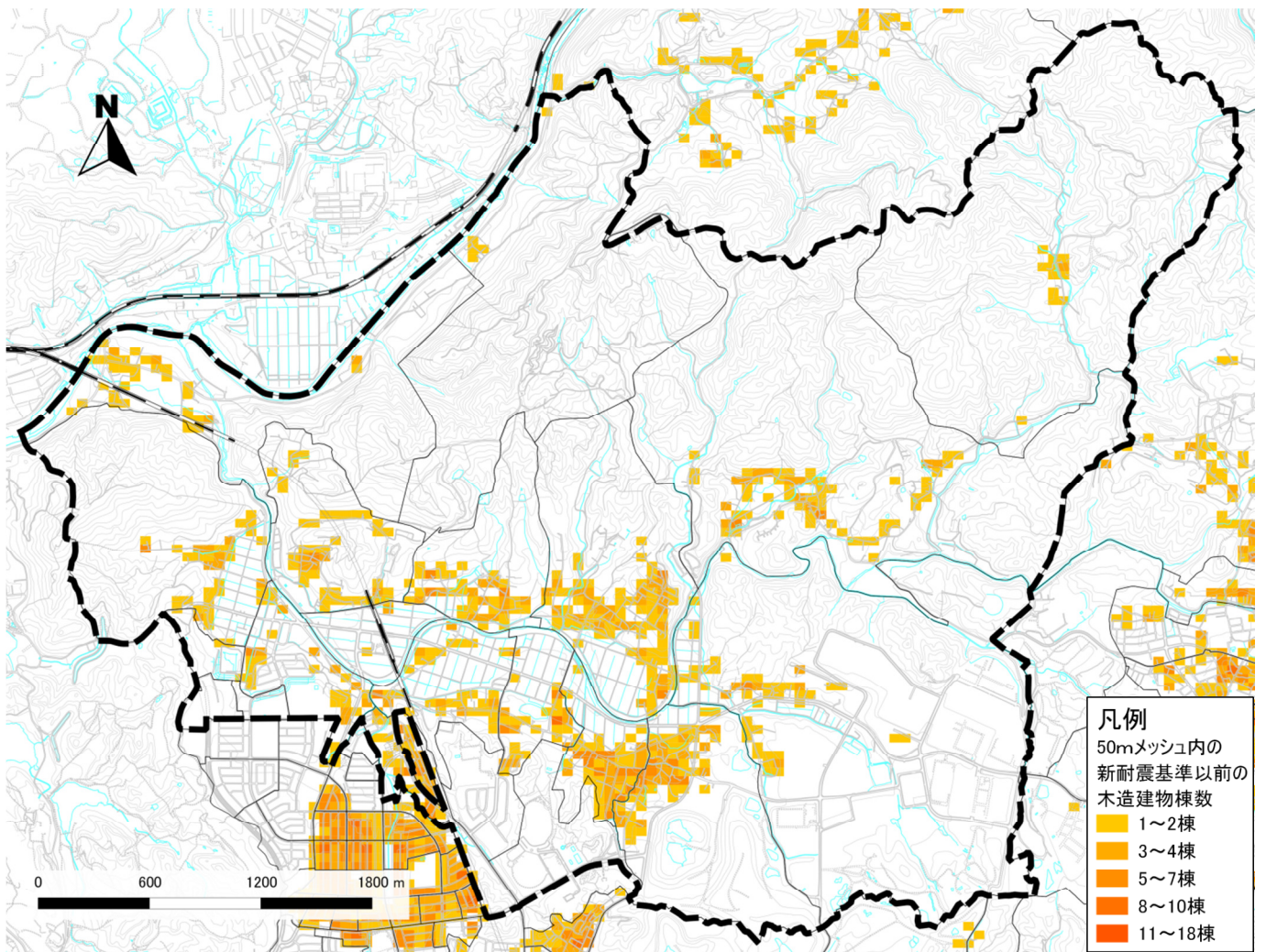
【建物】

水野連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 62.2%、非木造建物 37.8%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）に建てられた木造建物は全建物の 33.4%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて若干低い。扇状地様の堆積地形上には、古くからの集落が立地しているため、新耐震基準以前の木造建物の比率が高い傾向がみられる。

木造・非木造構成

建築年		棟数	構成比
木造	S35年以前	752棟	16.2%
	S36～55年	798棟	17.2%
	S56年以降	1,342棟	28.9%
計		2,892棟	62.2%
非木造	S45年以前	692棟	14.9%
	S46～55年	282棟	6.1%
	S56年以降	783棟	16.8%
計		1,757棟	37.8%
連区内棟数		4,649棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【10-B-1】水野連区東部 水害および土砂災害

- 余床町および曾野町に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中している。
- 連区東部では風水害時の避難所まで離れている。

【水害および土砂災害箇所】

水野連区東部では、浸水想定区域の設定はなく、近年大規模な水害は発生していない。

また、土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊/土石流)および土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊/土石流)は 18 箇所指定され、余床町および曾野町内に多くが集中するほか、穴田町にも存在する。

その他、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流の指定箇所も多く存在する。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

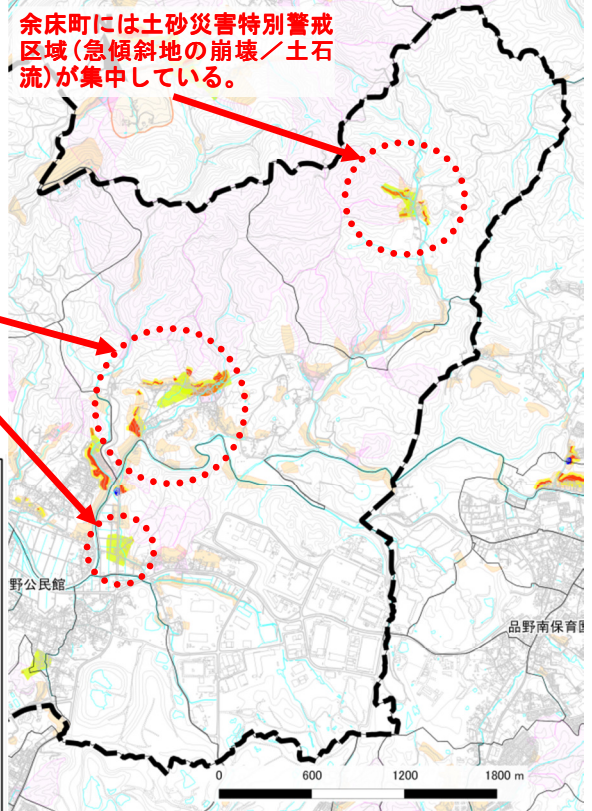
急傾斜地の崩壊	42棟
特別警戒区域	22棟
警戒区域	20棟
土石流	88棟
特別警戒区域	27棟
警戒区域	61棟

曾野町には土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊/土石流)が集中している。

穴田町には土砂災害警戒区域(土石流)が存在する。

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
- 土石流(特別警戒区域)
- 急傾斜地の崩壊(警戒区域)
- 土石流(警戒区域)
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害(東海豪雨)



水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

水野連区東部では、風水害時の避難所・緊急避難場所に指定されているところはない。風水害時の避難所が近くに存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

(1) 余床町について

余床町にある余床町民会館は、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域(土石流)内にあり、風水害時の避難所として適さない。このため、早めに近隣の避難所へ避難するなどの対応が必要である。

愛知県道 208 号上半田川名古屋線を曾野町方面に向かう場合、余床川沿いに急傾斜地崩壊危険箇所が多数ある。このため余床町から上半田川名古屋線を東側に向かい、下品野連区へ避難する体制も準備しておく必要がある。

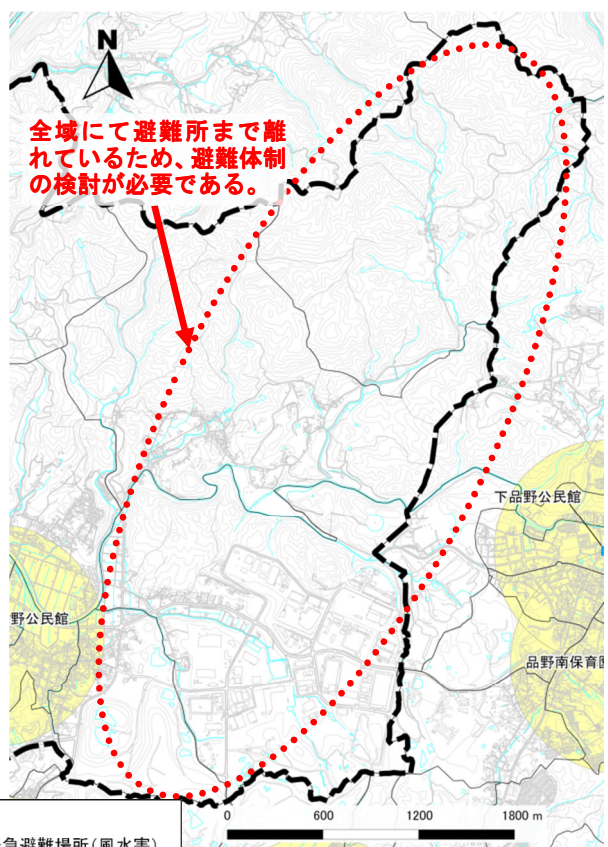
(2) 曾野町について

町内のいたるところに急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流などの箇所があり、65 歳以上の割合も 33.4%と高いため、水野連区西部の避難所へ避難を促す体制を整える必要がある。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
水野公民館【水野連区西部】	75人	150人	245人
下半田川町民会館【品野連区】	40人	80人	130人
下品野ふれあい会館【下品野連区】	65人	135人	215人

※地域防災計画より



凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【10-B-2】水野連区西部 水害および土砂災害

- 水野川沿いおよび庄内川沿いにて過去に水害が発生した箇所がある。
- 土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域として設定されている地域が複数ある。
- 連区北部にて風水害時の避難所までの距離が離れている。

【水害および土砂災害箇所】

水野連区西部では、浸水想定区域については設定されていないが、庄内川沿いの鹿乗町、水野川沿いの三沢町1丁目および中水野町2丁目において、平成12年の東海豪雨時に浸水被害が発生している。

また、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域に36箇所指定されているほか、土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所の指定箇所も多く存在する。

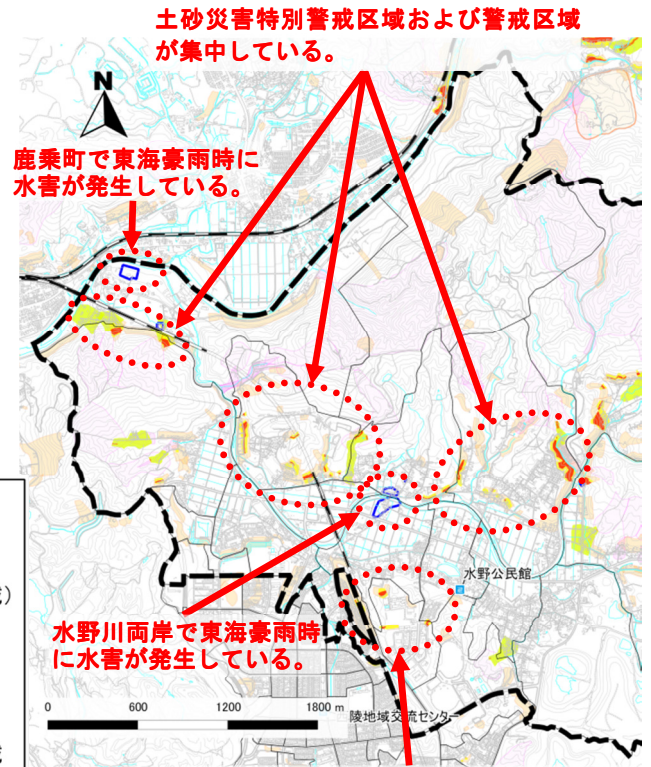
地震避難所に指定されている水野中学校の近くに、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域がある。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	71棟
特別警戒区域	15棟
警戒区域	56棟
土石流	101棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	101棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
- 土石流(特別警戒区域)
- 急傾斜地の崩壊(警戒区域)
- 土石流(警戒区域)
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害(東海豪雨)



水野中学校の周辺には土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)および土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)がある。

水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

水野連区西部では水野公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。日の出町、上本町、中水野町1~2丁目、小妻田町1~2丁目を除き、避難所までの距離が700m以上離れている。風水害時の避難所が近くに存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

前述のとおり、水野中学校は、周囲に土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)および土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)があり、急傾斜地崩壊防止対策のほか、予兆があった場合の避難対策の検討や危険情報の周知が必要である。

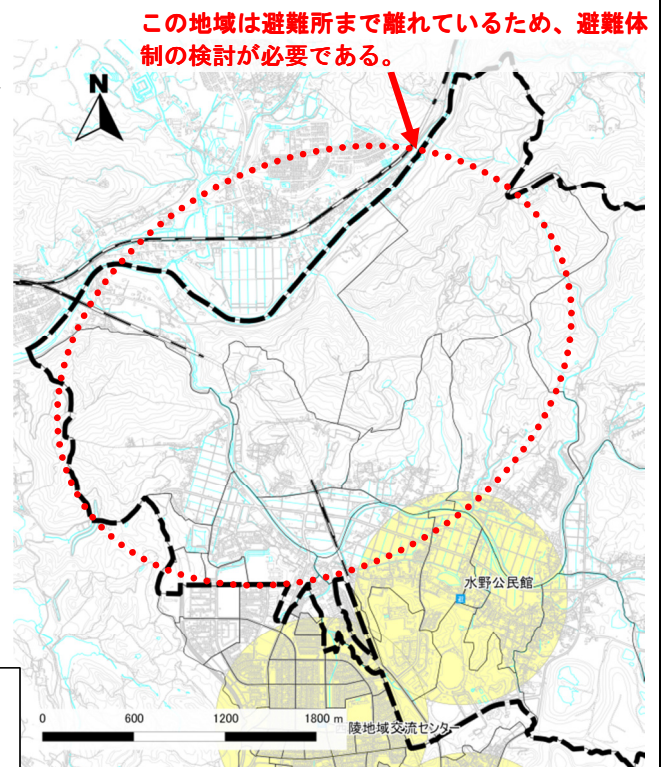
風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
水野公民館	75人	150人	245人
西陵地域交流センター【西陵連区】	95人	190人	305人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲

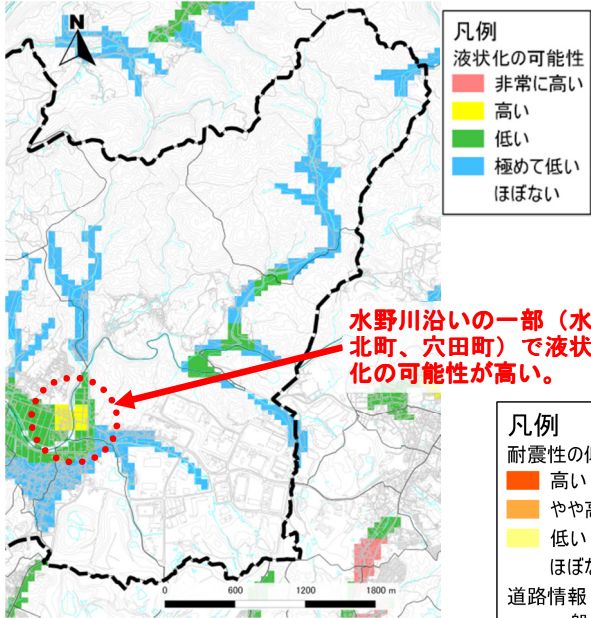
【10-C-1】水野連区東部 地震災害

- 水野川沿いに液状化の可能性が高い地域がある。
- 連区東部は地震時の避難所まで離れている。また、土砂災害による道路閉塞の可能性もある。

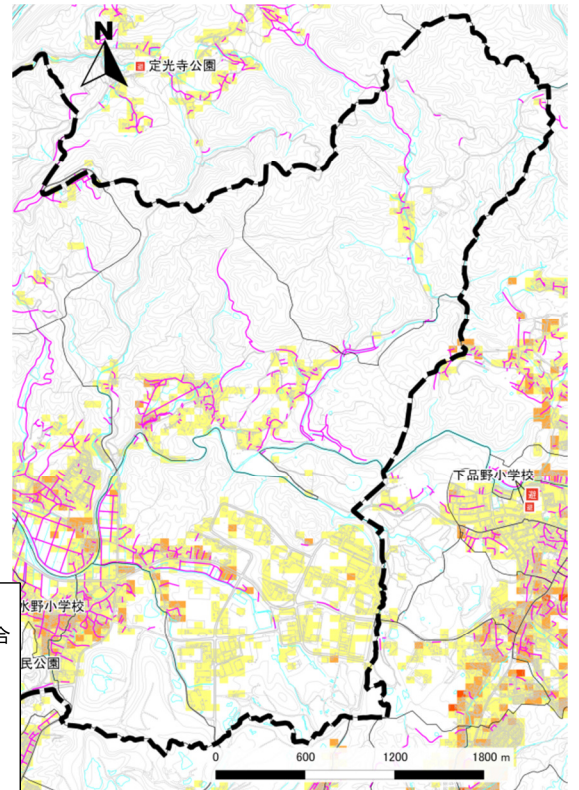
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について
水野連区東部は余床町を除く地域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。

(2) 液状化について
液状化の可能性が高い地域は、水野川およびその支流の山千川、余床川で形成された沖積地帯に分布する。水北町と穴田町では液状化の可能性が高い。



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

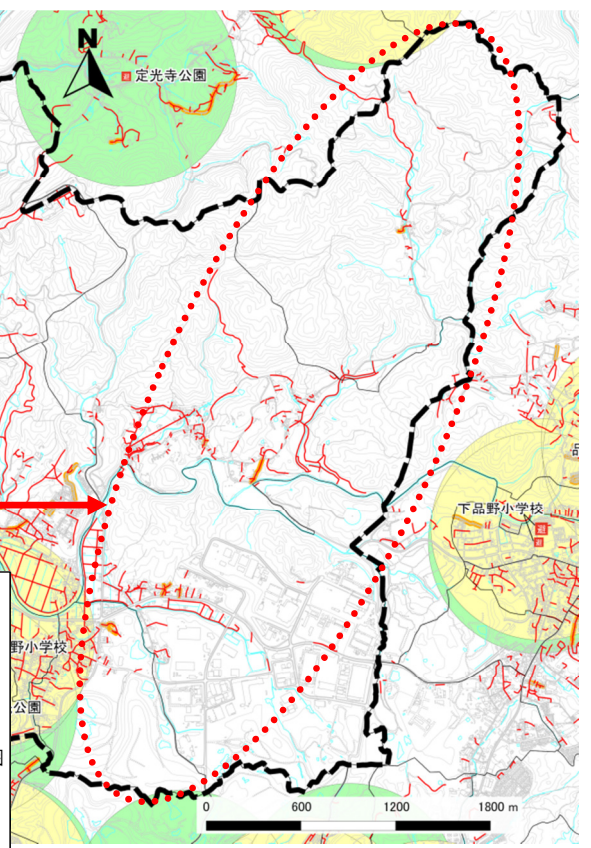
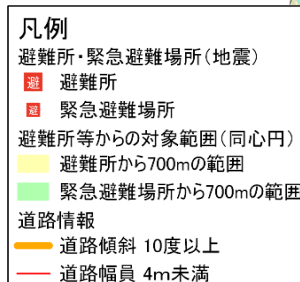
水野連区東部では、地震時の避難所および緊急避難場所までの距離が離れているため、近くに避難所が存在しないことを地域住民に周知するとともに、避難体制を整える必要がある。検討においては、地震に起因する土砂災害の発生についても考慮に入れる必要がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
水野小学校(運動場) 【水野連区西部】	水野小学校 【水野連区西部】	95人	190人	310人
下品野小学校(運動場) 【下品野連区】	下品野小学校 【下品野連区】	95人	190人	310人

※地域防災計画より

地震時の避難所まで距離が離れている。



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲

【10-C-2】水野連区西部 地震災害

- 耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い地域が存在する。
- 水野川流域にて、広範囲で液状化の危険性がある。
- 連区北部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

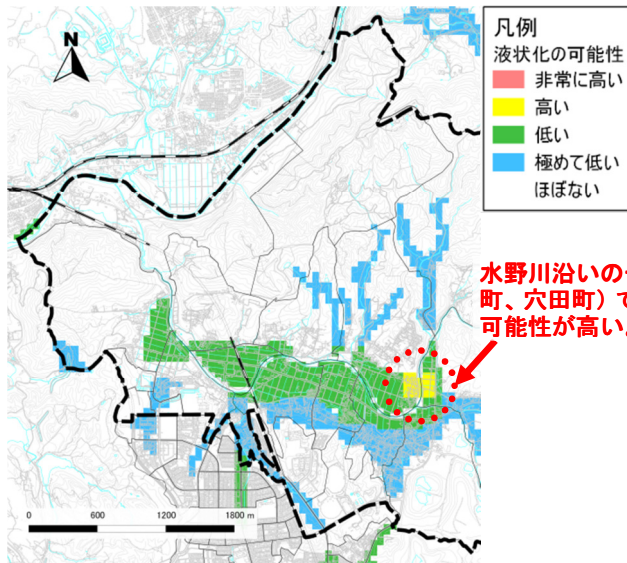
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

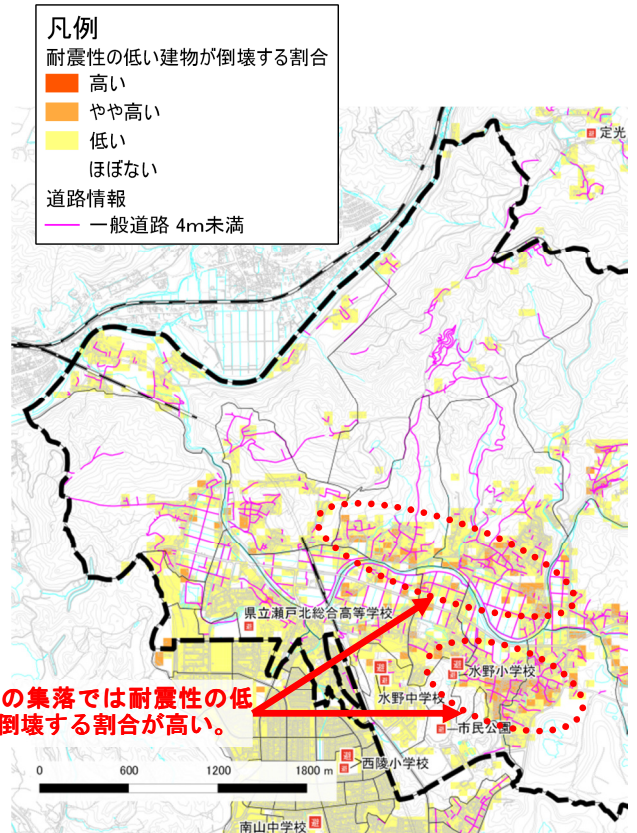
水野連区西部はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。水野川とその支流によって形成された扇状地様の堆積地形上に立地する集落では、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。

(2) 液状化について

液状化の可能性が高い地域は、水野川およびその支流によって形成された沖積地形に広く分布する。水北町と穴田町では液状化の可能性が高い。



液状化危険度図



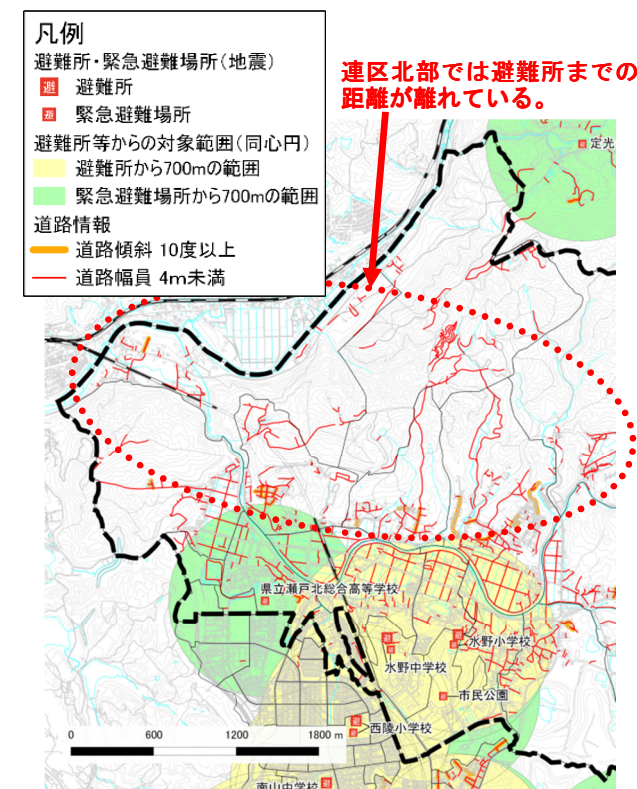
建物(木造および非木造)倒壊危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

水野連区西部では、地震時の緊急避難場所として水野小学校、水野中学校、市民公園、県立瀬戸北総合高等学校の4ヶ所、避難所として水野小学校、水野中学校、の2ヶ所が指定されている。

700m以内に避難所もしくは緊急避難場所が存在しないのは、十軒町、鹿乗町、川平町、内田町1丁目、三沢町1丁目、水北町などであり、近くに避難所が存在しないことを地域住民に周知する必要がある。

水野川沿いの沖積地形では、広範囲で液状化の可能性がある。



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
水野小学校(運動場)	水野小学校	95人	190人	310人
水野中学校(運動場)	水野中学校	270人	540人	880人
市民公園(野球場等)		※地域防災計画より		
県立瀬戸北総合高等学校(運動場)		※地域防災計画より		